新島々駅を発車し松本を目指す上り列車。東武鉄道 20000 系を改造・整備した 20100 形。アルピコ交通のイメージキャラクターである渕東(えんとう)なぎさのイラストがラッピングされた〝2代目なぎさ TRAIN〟となっている。

連載 第13回

# 民営鉄道の起源を訪ねて

## 鉄路は何を目指したか

# 長野県 アルピコ交通 上高地線

文・渋谷申博
text by Nobuhiro SHIBUYA

## 野麦街道の賑わいを受け継ぎ上高地観光を開発

かつて長野県の松本と岐阜県の飛騨を結ぶ道は「野麦(のむぎ)街道」と呼ばれ、信濃・飛騨間のみならず、日本海と信濃、ひいては東日本と西日本を結ぶ重要な交易路となっていた。しかし、明治以降になると松本から西の地域は鉄道開発の波に乗り遅れた感があった。アルピコ交通の前身、筑摩鉄道の創立趣意書にも、「幸に電灯の供給は得たるも未(いま)だ以て交通機関の恩典に浴せざるを甚(はなは)だ遺憾とす」とある。

そうした状況を打開しようと立ち上がったのが、松本市新村(にいむら)の政治家で実業家の上條信(じょうまことし)を中心とした者たちであった。彼らは大正8（1919）年9月に鉄道院に鉄道敷設免許の申請をした。

その年の12月には許可が下り、翌年11月に松本〜新村で工事が始められた。そして、大正10年10月、同区間で営業が開始された。大正11年の9月には島々駅まで路線は延び、全線が開通した。この年には社名は筑摩電気鉄道に改称された。

ちなみに筑摩鉄道時代、駅に掲げられていた社章が、かつて筑摩鉄道本社があった新村駅に復元されている。社名はその後、松本電気鉄道・アルピコ交通と変わっていったが、創業精神を受け継いでいるのだろう。そんなアルピコ交通の足跡を求めて、松本駅から上高地線に乗り込んだ。

## 松本城

江戸時代以前の天守が残る 12 城の一つで、姫路城・犬山城・彦根城・松江城とともに国宝に指定されている。5 重 6 階の大天守を中心に小天守・櫓が連結した複雑な構造をもつ。天守の建築年には諸説があるが 16 世紀末～ 17 世紀初めと考えられる。

## 四柱神社

天地の始めに現れた 3 柱の神（天之御中主神・高皇産霊神・神皇産霊神）と天照大神を祀ることからこの名がある。明治 12（1879）年の創建であるが、松本の中心部に鎮座することから市民の信仰を集めている。内外の観光客の参拝も多い。

## 新島々駅

上高地線の終点。バスターミナルを兼ねており、上高地などへの入口ともなっている。野麦街道（国道 158 号）に面しており、古くから養馬や物流などで栄えた地域であった。

## 上高地線 路線図

## 松本大学

松本市新村に本部を置く私立大学。明治 31（1898）年に開設された私塾・戊戌学会が前身で、大学としての開校は平成 14（2002）年。その後、学部の増設など規模を拡大してきた。

## 専称寺

永禄元（1558）年に創建された浄土宗の寺院。本尊・阿弥陀如来のほか北向観音や弁財天、子育呑龍上人像などを安置し、土地の人びとからは「呑龍様」と呼ばれている。また、大正 9（1920）年には筑摩鉄道の創立総会が開かれた。

## 亀田屋酒造店

下新駅近くにある明治 2（1869）年創業の酒蔵。長野県産の米と北アルプスの伏流水を用いて、昔ながらの「寒造り」でアルプス正宗などの日本酒を製造している。工場の前には道祖神が鎮座し、母屋などが見学できる。直売所「酒遊館」もある。

### アルピコ交通株式会社

ALPICO kotsu Co., ltd.

設　　立　1920 年（大正 9 年）5 月 29 日
上高地線　松本－新島々（14.4Km）
https://www.alpico.co.jp/traffic/

筆者が乗車したのは5月末の平日、午前10時45分発の下りであったが、車内は若者たちでほぼ満員だった。彼らの多くは松本大学の学生で、北新・松本大学前駅で下車していく。つられて筆者も下車してみた。

松本大学の白亜の校舎を横目に、キャンパスの西側に鎮座する岩崎神社に向かう。このあたりは日本最古の神社の一つとされる諏訪大社の神領があった関係で、諏訪信仰が広まっており、岩崎神社にも諏訪大社の分霊が祀られている。岩崎神社の参拝をすませ新村駅まで歩く。駅近くの専称寺は、筑摩鉄道の創立総会が開かれた場所だ。

再び上高地線に乗り、終点の新島々駅へ。

先述したように本来の終点は島々駅であったが、昭和58（1983）年の台風被害により、現在は一駅手前の新島々駅が終点となっている。そして、ここは上高地への入口でもある。乗客のほとんどが駅前のバスターミナルから上高地行きのバスに乗り換えていく。

上高地線は早くから上高地観光の主要な交通となっており、昭和9（1934）年には、科学者で随筆家の寺田寅彦も旅の途中、島々駅からバスに乗り換えたと随筆『雨の上高地』に書いている。

バスを見送り、線路と並行する野麦街道（国道158号）に出る。古道の面影はないが、上高地から流れる梓川の清流は、はるか昔と変わらないように思える。

上高地線沿線には近世以前創建の社寺も多い。また、松本中心部には松本城などの名所もある。引き続きそれらを観光するため、新島々駅へと戻ることにした。


**しぶやのぶひろ**

1960年、東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒。日本宗教史研究家。『参拝したくなる！日本の神様と神社の教科書』（ナツメ社）、『聖地鉄道めぐり』『全国 名所図会めぐり』（以上G.B.）、『猫の日本史』（出版芸術社）ほか著書多数。